

# 令和8年度 小樽市立稲穂小学校 学力向上改善プラン

## 1 児童の実態

- ◆ 児童の実態を下記の観点から数値をもとに文章で記載。
- ① 前改善プランは、学年による差が大きく出ており、目標値に達していない学年が多い。
- ② 全国学力・学習状況調査の正答率は、国語は全国平均を上回り、算数・理科は全国平均を下回っている。
- ③ 標準学力調査は3年・5年ともに国語と算数において全国平均を上回っている。
- ④ 家庭学習を既定の時間取り組んでいる児童は54%である。

## 2 学年ごとの定着目標（数値目標）

### <国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
2年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
3年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
4年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
5年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
6年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント

### <算数科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
2年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
3年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
4年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
5年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント
6年	・チャレンジテスト平均正答率全道+3ポイント

### <学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習「20分以上」75%以上
2年	・家庭学習「30分以上」75%以上
3年	・家庭学習「40分以上」75%以上
4年	・家庭学習「50分以上」75%以上
5年	・家庭学習「60分以上」65%以上
6年	・家庭学習「70分以上」50%以上

## 3 目標を達成するための具体的な方策

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①UDLの視点を取り入れた「子どもが主語」の授業作り
- ②チャレンジテストの結果分析に基づく指導
- ③家庭学習の内容の充実を図るための指導と宿題の作成

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①学力調査結果分析に基づく、指導事項を明確にした授業作りの推進
- ②授業における自己選択・自己調整の位置付けによる思考力・判断力・表現力等の育成

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①授業と連動した継続的な家庭学習の充実
- ②保護者・地域住民と連携した生活習慣の改善

## 4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8年	
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習のススメ」の周知</li> <li>・全国学力・学習状況調査過去問題の実施</li> <li>○R8全国学力・学習状況調査の実施</li> <li>○全国学力・学習状況調査 自校採点</li> <li>○標準学力調査実施（第3学年・第5学年）</li> <li>○標準学力調査結果分析</li> <li>・前年度問題チャレンジテストの実施・分析</li> <li>・児童アンケートの実施</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究授業の実施</li> <li>・前年度問題チャレンジテストサポート問題の実施</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムチェックシートの実施・集計・分析</li> <li>・1学期末チャレンジテスト問題の実施・分析・改善分析</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの実施・集計・分析</li> </ul>
8月	○令和9年度全国学力・学習状況調査結果分析
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種調査結果・分析から、学力向上改善プランの評価・改善を図る。</li> <li>○保護者への調査結果・改善策の周知説明</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末チャレンジテストの実施・分析と改善策の提示</li> <li>・2学期末チャレンジテストサポート問題の実施</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムチェックシートの実施・集計・分析</li> <li>・児童アンケートの実施、集計、分析</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開研究会の実施</li> <li>・学校評価の実施・分析</li> </ul>
R 9年	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上プランの評価と次年度の改善点を検討</li> <li>・校内研究のまとめ</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度校内研究計画の提案</li> <li>・全国学力・学友状況調査過去問題の実施</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上委員会「確認テスト」の実施</li> <li>○令和9年度学力向上改善プランの作成</li> </ul>

## 5 評価方法

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①児童アンケートを4月、7月、12月に実施し、授業に対する子どもの意識調査を行う
- ②学期ごとにチャレンジテスト、年度末に確認テストを実施し、学習の定着状況を把握する
- ③児童の学習習慣等の実施を把握する

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①研修等で、指導事項についての理解を深め、授業改善に生かす
- ②分析に基づくサポート問題、下学年問題を実施し、評価する

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①4月・7月・12月に児童アンケートを行い、家庭学習の取組状況・生活習慣を把握する
- ②学習習慣・生活習慣の改善に向け、学校だより等で周知する